



藤沢市立明治中学校 学校だより

2024年3月11日

明中通信

No. 1 1

発行 校長 中尾安伸

<学校教育目標> ひと・もの・ことと豊かに関わりながら たくましく生きる生徒の育成

学校ホームページ <http://www.fujisawa-kng.ed.jp/jmeij/>

祝 第75回藤沢市立明治中学校卒業証書授与式 卒業生のみなさんご卒業おめでとうございます いままで明治中学校を支えてくれて ありがとう

【保護者のみなさま お礼】

3年生保護者のみなさま、いよいよ明日、卒業証書授与式となります。今まで本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。

本校の教育目標は「ひと・もの・ことと豊かに関わりながら たくましく生きる生徒の育成」です。中でも「ひと」との関わりが大きな成長をもたらすと考えています。

思春期を迎え、自我が目覚め、人の目が気になってくる。けれども、目覚めた自我はまだ不安定で、周りに左右されることも多くあり、見ている大人達は心配したり、いっしょに悩んだりすることも多かったのではないのでしょうか。この3年間を通して経験を積みながら、少しずつ成功と失敗を繰り返しながら、たくましく育ってきたのだと思います。同じ大人としていっしょに見守ることができた幸せに感謝申し上げます。

保護者のみなさまにとっても、生徒のみなさんにとっても、私たちがお役に立てていれば幸いに存じます。今まで本当にありがとうございました。

1, 2年生の保護者のみなさま、今年度ありがとうございました。引き続き、来年度も本校の教育活動にご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【3年生の特別日課】

2/21 江ノ島フィールドワーク ☺

霧雨のような雨が降っていて寒かったかな。でも、そんな中でも楽しい時間を過ごせた人が多かったようですね。地元のことってなんとなく後回しになりがちですが、江ノ島のことをやはり「藤沢人」ならば知っておいた方がいいよね。

2/26 卒業遠足（富士急ハイランド） 見るからに楽しんでいるね ☺



2 / 29 球技大会

ハンドボール 巧みな攻撃 対 鉄壁の防御 勝敗は？



バレーボール 上手な人が多くてビックリ



体育委員お疲れ様 ④ ドッジボール ④ 特別ルールありましたね。



3 / 1 奉仕活動 ④

一生懸命に 教室、アリーナと格技室を綺麗にしてくださりありがとうございました。出張でみなさんのその様子が見られなくてとても残念な気持ちです。慣れ親しんだ場所。

「黙々と 仕事する人 かっこよさ」に気付いている、見ている周りの人はけっこういたようです。

3 / 4 DJ. ハギー の講演会

テーマ「失敗はあたりまえ ～人生どうにかなる～ 逆境を乗り越えて」



3 / 8号のタウンニュースに掲載されているそうです。ハギーさんは「今、幸せだ。」とっていました。

3 / 5 映画鑑賞

特別にテラスモールの109シネマズ湘南の開演前にシアターを1つ、貸し切ったの上映。なかなかできない経験ですよね。上映作品は「身代わり忠臣蔵」。笑いあり、感動あり。

3 / 6 第3学年「集い」 学級委員の方々準備 お疲れ様



「トランプ手品」

「熱い語り」

「血液型ゲーム」

「3年間の思い出」上映

3 / 7 電動車椅子サッカーの体験教室

電動車椅子サッカーの「横浜クラッカーズ（本校卒業生在籍）」チームの方々をお招きして、講話を聴く機会と電動車椅子に乗る機会が得られました。私は対話形式で監督さんと本校卒業生が語ってくれた数々のコメントからたくさんの「パワー」をいただきました。

みなさんが感じた、ありのままのことを今後も大事にしてもらいたい。そんな気持ちにさせてくれるものでしたね。（本校卒業生 2023年度シドニーW杯日本代表選手 今後の活躍にも期待）



【新入生体験授業 3 / 1】

この4月に入学する6年生が各小学校より本校に来校。体験授業と生徒会主催の学校紹介を行いました。4月から、またいっしょにがんばりましょう。☺



【家庭部 カーテンタッセルありがとう】

みなさんお気づきでしょうか。各クラスのカーテンにカーテンタッセル（カーテンをまとめるひも）が全てにつきましました。これは家庭部のみなさんが学校のために、みなさんのためにと作成し、各クラスに取り付けてくれたものになります。感謝！感謝！です。ありがとうございます。☺☺



【美術部 奮闘中】作品は近日公開 お楽しみに☺☺



【紅白メダカ ㊦って感じですね】

メダカスペース隣で泳いでいる



「紅白メダカ」。卒業生のお父さんが寄贈してくださいました。色は本物かHPで

【朝のあいさつ運動】



田中会長をはじめとする現生徒会と当番クラスで行っている毎週水曜恒例の「朝のあいさつ運動」。活気に溢れていたなので、思わず写真をとってしまいました。

多くの人にとって「良い一日のはじまり」となりますように☺
* {あいさつ} で始める会話って相手を安心させるらしいよ。

<伝えたいこと 「暗闇のなかの象」 寓話 >

ある日、村に、1頭の象を連れて一行が他国から訪れた。

象を見たこともない異国の人々の見せたいとおもって連れて来たのである。象は村の片隅の暗い小屋におとなしくつながれていた。

やがて象の噂を聞きつけて、村の人々は興味が抑えられなくなりこっそりと小屋に忍びこんだ。しかし、小屋には明かりがなく、はっきり見えなかったので、村人はおそろおそろ象に触れ、それを確かめた。

ある人は象の鼻に触れ、「象とは、まるで大蛇のような生き物だ」と言った。

別の人は耳に触れ、「大蛇？ いやいや、扇のような生き物のはずだ」と言った。

また別の人は脚に触れ、「いや、石の柱みたいな生き物だ」と言う。

さらに別の人は、背中に触れて「みんな違う。象は丸太のような生き物だ」と言う。

村人はその後も口々に言い合ったが、結論をみることはなかった。もしも小屋に微かな明かりがあったなら、このような口論はなかっただろう。

みなさんは『木を見て森を見ず』という言葉を知っているでしょうか。

『木を見て森を見ず』「小さいことに心を奪われて、全体を見通さないこと」のたとえ。逆の言葉を考えると

『森を見て木を見ず』となりますね。この慣用句はないようですが、意味付けするととても大切なことのように思えます。

「全体だけ見て 細部のことについてはおろそかにすること」になるでしょうか。

今回の寓話で、象に触れた人々は、誰ひとりとして間違っただけではありません。たしかに象は大蛇のような鼻を持ち、扇のような耳を持ち、石柱のような脚を持ち、丸太のような背中を持った生き物です。（象さんごめんさい。）

全体を把握できないまま、個々に触れた部位だけの事であり、自分が触れたものが鼻であり、耳であり、脚であり、背中であることでさえわかっていないのですから、象が一体どんな生き物なのかを知る由もありません。

これらの事は周りで起きる多くの事に重ね合わせて考えられるのではないのでしょうか。

例えば、各役割に分担した仕事があります。分担毎に専門性を高め、最適化を求めていったとします。しかし、分担があまりにも固定すると、そこで動く一人ひとりが、自分自身がなんのために、なにを生み出しているのかわからない状況になりやすく、モチベーションが上がらない状態になりかねません。さらには、専門性もなかに閉じた発想しかできなくなるということも起こりえます。

あらゆる要素の真ん中に、それらの芯となるコンセプトを持つことが重要なのです。

もう一例、「プレゼンや面接など 伝える技術」としてもこの話は役立ちます。

人に自分の考えを伝えるとき、全体が見えないままいきなり細かな話などをしても、相手は戸惑うばかりだと思いませんか。まず、これから自分がする話の柱となるテーマがなで、大きな結論がなんなのかを先に伝えることで、話は分かりやすくなるそうです。

逆に、「全体を見ることで安心をして内部が壊れていることに気づかない」なんて話も、よく耳に入ってくるのではないのでしょうか。これも困ったものですね。

『木を見て 森を見ず』と造語になりますが『森を見て 木を見ず』は双方に改善点が生まれますね。また造語ですが、できれば『森を見て 木も見る』が一番良いのでしょうか。